

<第3回 秋のたんけんの報告>

期 日：平成28年10月22日（土）～23日（日） 1泊2日

参加者：31名

	男	女	合計
小学1年	4	4	8
小学2年	8	5	13
小学3年	6	4	10
合計	18	13	31

欠席：4名（小2男2名、小3女2名）

ボランティアスタッフ：男性 2名・女性 12名 合計14名

日程

10月22日 土	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
					受付	はじまりのつどい	昼食（レストラン）	秋のたんけん① 「里の秋を歩こう」	かみなか農楽舎まで 約6キロの道のり	テント泊準備	夕食（野外炊飯）	「畑の恵みを いただこう」	入浴	ふりかえり テント泊 就寝 （かみなか農楽舎泊）			
10月23日 日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15							
	起床	朝食（野外炊飯） 朝のつどい	朝食（野外炊飯） 朝のつどい	「畑のお手伝い」 秋のたんけん②	自然の家に帰ろう	昼食（レストラン）	秋のまとめ	冬のけいかく	おわりのつどい	解散							

企画のポイント

季節は秋ということで、秋の自然をどのようにしたら感じてもらえるプログラムになるのかを考え、「散歩」と「農業体験」をメインの活動に据え、プログラムを作成した。

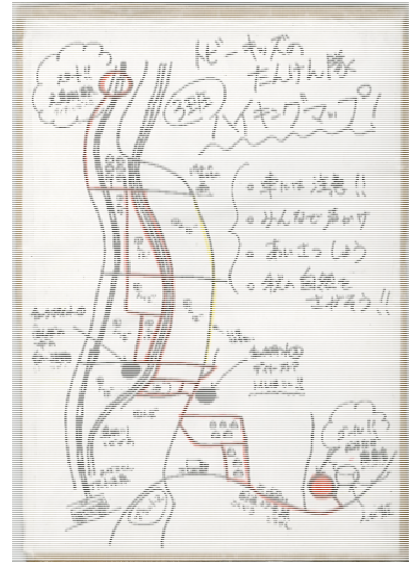
近隣の地域では、学校に通う時には、低学年については、距離が遠い子どもたちは、スクールバスやタクシーを利用している場合があると聞いている。歩くことは、子どもたちが日常の中であまり体験していないことではないかと考え、施設がある人里を離れた場所ではなく、日常生活に近い田畑が広がる里山を歩き、秋の自然を感じてもらいたいと考えた。

また、秋は、恵の秋とも言われているように、自分たちで野菜を育てているのではないため、収穫だけの体験となってしまうが、自分たちの手で収穫し、調理するという体験をさせたいと考えた。野菜ができている様子を見ることができたり、それを収穫したり、また、採

れたて野菜の美味しさを感じられるような活動ができないかと考え、若狭町にある「農業生産法人かみなか農楽舎」に協力を依頼をした。かみなか農楽舎は、平成14年に福井県若狭町役場、地元農家、民間企業が共同出資して、福井県若狭町に誕生した農業生産法人であり、都市からの若者の就農・定住を促進し地域集落を活性化する『就農・定住事業』を主に行っている。また、学校や団体に対する農業体験事業なども行っており、年間を通した子ども対象の事業も行っている。広い芝生の広場や野外調理ができる場所があり、農業体験とともに、野外調理やテント泊もそこで行わせてもらうこととした。

歩くコースについては、施設の近隣で、車のあまり通らない道であること、途中にトイレがあること、迷うことがあまりないような道であることなどを考え、検討を重ねた。また、距離についても、あまり遠すぎず、近すぎず、達成感のある距離を考え、低学年の参加者が2時間程度で歩くことができるようにと、約6キロ程度にすることとした。こうした条件に当てはまるコースとして、当施設から車で20分ぐらい離れた大鳥羽駅からスタートし、鳥羽川沿いの田んぼの中を歩き、かみなか農楽舎までを設定した。

※農業生産法人かみなか農楽舎 (<http://nouson-kaminaka.com/>)



運営のポイント

かみなか農楽舎での活動をするにあたっては、体験事業責任者の八代恵里さんに相談をさせていただき、プログラムを検討していった。8月頃に相談に行ったが、10月末は、ちょうど夏野菜と秋野菜の境目ということで、採れる野菜が近くなってみないとわからず、あらかじめ決めておくことが難しい時期であることがわかった。野外炊飯のメニューについては、その時にあるもので構わないので、野菜を収穫させていただき、それを使って料理を作ることができるようにとメニューの検討を依頼することとした。

メインのメニューについては、夏のたんけんでも作ったカレーライスにすることとし、朝食についても、春のたんけんでも作ったみそ汁にした。繰り返し、同じメニューを作ることによって、参加者がどう作ったらいいいのか分かりやすく、また、前回の成功や失敗などをふまえて積極的に取り組めるようになるのではないかと考えた。

安全管理のポイント

ハイキングの際には、特に、地域の人暮らしに近い自然をゆっくり歩きながら感じ、道草をしたり、虫を探したりしながら歩いてもらいたかった。そこで、車道の端を一行で歩かなければならないような歩道のない道は通らないように、また、車通りの多い道を渡る回数をできる限り減らせるようにした。また、車通りの多い道を横断する際には、場所を限定し、スタッフを配置するようにした。このように、今回は特に車に対する注意を徹底して行った。今回のコースは、見通しのいい田んぼが多かったことで、チェックポイント①からは、前半のコース全体が見渡せ、各班の進み具合がよく見てとれた。

夜は、テント泊をすることとしたが、歩いた疲れを多少でも取り除くためにも、また、体

を温めるためにも、お風呂にはいれるようにしたかった。そこで、かみなか農楽舎のすぐ近くにある旅館「えびす荘」のお風呂に入らせていただけるようお願いをした。

実際の様子

<1日目>



大鳥羽駅まで移動し、さあ出発！



地図を見ながら、コース確認。



みんなでゆっくり歩いていこう。



道草しながら進むよ！



テントのたて方、覚えているかな。



テント村ができました。



講師の八代さん、よろしくお願いします！



サツマイモを掘りました。



沢山、土の中から出てきた！



とれたてのイモでカレーを作ります。



羽釜と釜戸でおいしいご飯を！



できたてのご飯はおいしい！



サツマイモでサラダも作ります。



おいしくいただきました！

<2日目>



みそ汁を作ろう！



ちゃんと軍手しているね。



ご飯は、湯気のおいで炊き具合をみます。



秋の気持ちのいい朝です。



天日干しのお米、とってもおいしい。



みんなで、いただきます！



昨日のサツマイモのツルを片付けます！



ヤギさんにツルをあげました



とってもいい天気で、道路にゴロン



振り返りの絵も描きました



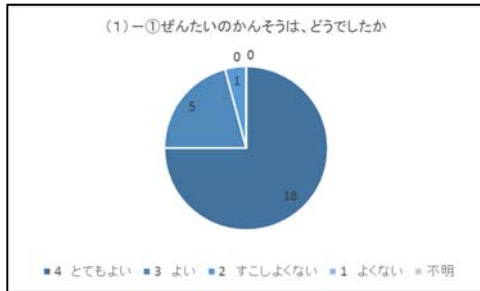
第3回のふりかえりの絵

子どもたちの絵を見てみると、ハイキングの様子や芋掘りをしている様子、ヤギの絵、ご飯の絵など、様々な絵を描いていた。1泊2日の中に、様々な体験が盛り込まれている第2回を表していると感じる。ハイキングや芋掘り、料理作りなど、それぞれの体験はどこでも行われている体験ではあるが、例えば、活動場所まで歩いて移動すること、掘ったイモで料理を作ること、つながりのある体験として行うことで、参加者にとっても印象に残る体験となるのではないかと考える。



事業アンケート

(1) 全体の感想はどうでしたか。



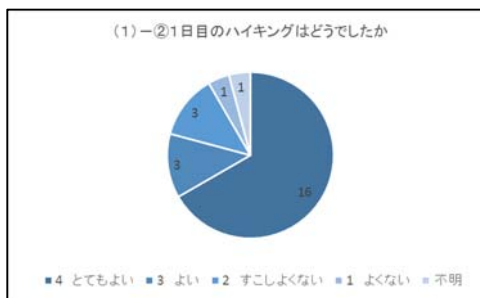
○楽しかった。次が楽しみ。

○ヤギにえさをあげて、楽しかった。

○仲よくできました。

子どもたちの雰囲気もよく、天候にも恵まれて楽しく活動ができた。3回目ともなると、班の仲もよくなり、子どもたち同士の関わりが増えているように感じた。

(2) 1日目のハイキングはどうでしたか。



○道草しながら歩いたのが楽しかった。

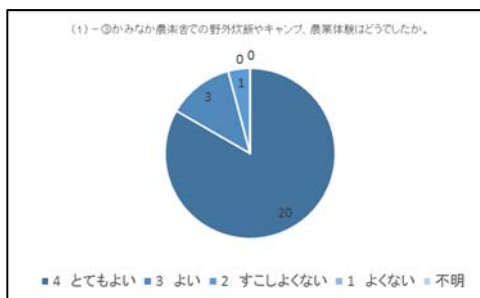
○秋のしぜんをみつけられてよかった。

●ちょっとしんどかったです。

●6キロ歩くのはつかれました。

体力的には、きつかったという子もいたが、全員が無事にゴールまでたどり着くことができた。歩く楽しさを感じてもらえてよかった。

(3) かみなか農楽舎での野外炊事やキャンプ、農業体験はどうでしたか。



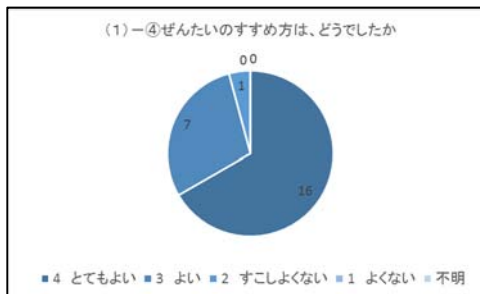
○いもほりして料理して楽しかったです。

○包丁を使うのがちょっとこわかったけれどおもしろかった。

●きれいなものがでてこまった。

農業体験と野外調理の組み合わせは、子どもたちにとって楽しい活動であったようです。嫌いな野菜もあった子もいたようだが、ごはんのおかわりをしている子が多かった。

(4) ぜんたいのすすめ方はどうでしたか。

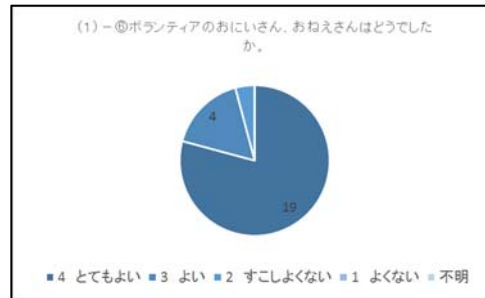
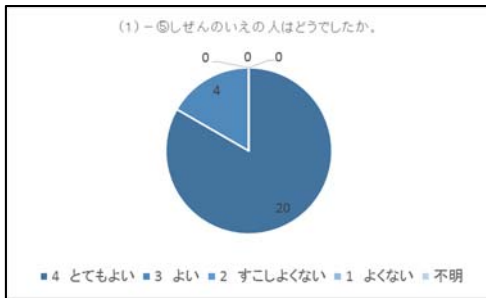


○次に何をするのか、今、何をやる時間なのか等説明をしていただき、よくわかったそうです。

●ちょっとのろい。

丁寧に進めることを心掛けたが、よくわかったという声もあれば、進みが遅いと感じた声もあった。低学年の子どもたちにわかるように、また、長すぎないように、必要なことを伝えることは難しい。

(5) しぜんのいえの人、ボランティアのお兄さん、お姉さんはどうでしたか。



「やけどをしないように気をくばってくれた」、「いっぱいお話をしてくれて嬉しかった」など、ボランティアのお兄さん、お姉さんがいることで、安全に楽しく活動ができていることが子どもたちの感想からもよくわかる。慣れない道や活動場所の中でも、非常によく子どもたちのことを見てくれていた。

事業の成果と課題

- 「歩く」というプログラムが、自然に親しんだり、仲間との楽しい時間を過ごせたりと、非常に面白いプログラムであることに改めて気づくことができた。施設周辺の険しい斜面の山とは異なり、平らで田畑の広がる見晴らしのよい里山を歩くことで、体力的にもさほど無理なく、子どもたちの興味関心を虫や川の生き物、そして秋の自然へと向けることができたのではないかと感じている。どんな秋を見つけたのか、直接聞いていないが、事後アンケートにあった「秋のしぜんをみつけられてよかった。」という言葉にあるように、一人一人が何かしら秋を感じてもらうことができただろう。今後も、地域に出向き、そこを歩くというプログラムは取り入れてみたいと思う。全国的にもフットパスやウォーキングイベントも開催されており、そうしたノウハウを生かしながら、若狭地域の良さを発見し、伝えることができるようなプログラムも作っていきたい。
- 秋のたんけんでは、かみなか農楽舎に大変お世話になり、プログラムを実施することができた。当施設を利用する団体で、かみなか農楽舎での農業体験を取り入れているところもある。地域で活動をしている団体との連携も、本事業の大きな柱としている。子どもたちがまた体験をしてみたいと思えば、今後はそこでの事業に参加したり、家族で行ってみたいりすることもできる。子どもたちが体験をできる場所が地域にたくさんあることを伝えることも、本事業では大切にしたい。また、かみなか農楽舎は、農業従事者を育てることを主な目的としており、子どもたちが本物の農業に触れる体験をすることができた。採れたての野菜のおいしさ、そして、農業を通じた自然の循環やつながり（サツマイモ→自分たちの食べ物→使わなかったツル→ヤギのえさ→ヤギがいることで他の野生動物が近づかない→畑が守られる）について、体験を通して、お話も交えながら、分かりやすく教えていただいた。お米も天日干しものをいただき、本物のおいしさも体験できた。このように本物に触れる体験は、非常に重要であると感じている。今後も、様々な分野の本物に出会える場を、地域の団体と連携しながら提供できるような事業にしたいと考えている。
- 今回も、テントや寝袋の片づけに時間がかかってしまい、夏から引き続き、課題となった。テント設営については、到着した班から随時行っていたために、全体での説明や設

営の練習ができなかった。一度夏に経験はしているものの、一度では覚えることもできないため、職員やボランティアスタッフが中心になって、設営、撤収を行うこととなった。次年度については、第1回で、キャンプ生活の基礎となる体験をしてみたいと考えている。テントや寝袋の扱い方を中心に、時間をかけて行ってみたい。

- かみなか農楽舎の八代さんとの打ち合わせの中で、畑で収穫できる野菜が、夏野菜の終わりや秋野菜のはじまりの時期であり、時期的に収穫体験が難しいということであった。10月末の時期に収穫体験を取り入れたが、農業に対する理解がない中で検討したことであるため、検討段階から専門家に相談したり、収穫できる野菜をある程度調べることも必要であったと感じている。しかしながら、かみなか農楽舎の八代さんが組んでくれた農業体験の流れ、サツマイモ掘りをして野外調理でカレーライス作り、翌日には、サツマイモのツルの片付け、ヤギにあげる、という体験が、参加者にとって、ごく自然な形で農業について、自然のつながりを理解できるものとなっていた。

体力的に疲れたという声も聞かれたが、参加者の様子を見てみると、仲間との関係が深まり、また、秋の自然の中で、歩いたり、野外調理をしたり、テント泊をしたり、農業体験をしたり、様々な体験ができたことで、充実感や楽しさを感じられたように思う。若狭地域の豊かな里山の自然にふれること、また、かみなか農楽舎という本物の農業にふれることができた2日間であった。多大が協力をいただいたかみなか農楽舎に、感謝いたします。